

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-110876

⑤ Int. Cl.⁵H 05 K 5/02
7/12

識別記号

A
D

庁内整理番号

7147-4E
7516-4E

⑬ 公開 平成3年(1991)11月13日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全1頁)

⑭ 考案の名称 ブラケットとパネルその他各種被取付部材との螺子止構造

⑯ 実 願 平2-20086

⑰ 出 願 平2(1990)2月27日

⑱ 考 案 者 林 二 郎 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ株式会社
内

⑲ 出 願 人 シャープ株式会社 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

⑳ 代 理 人 弁理士 鈴木 ハルミ

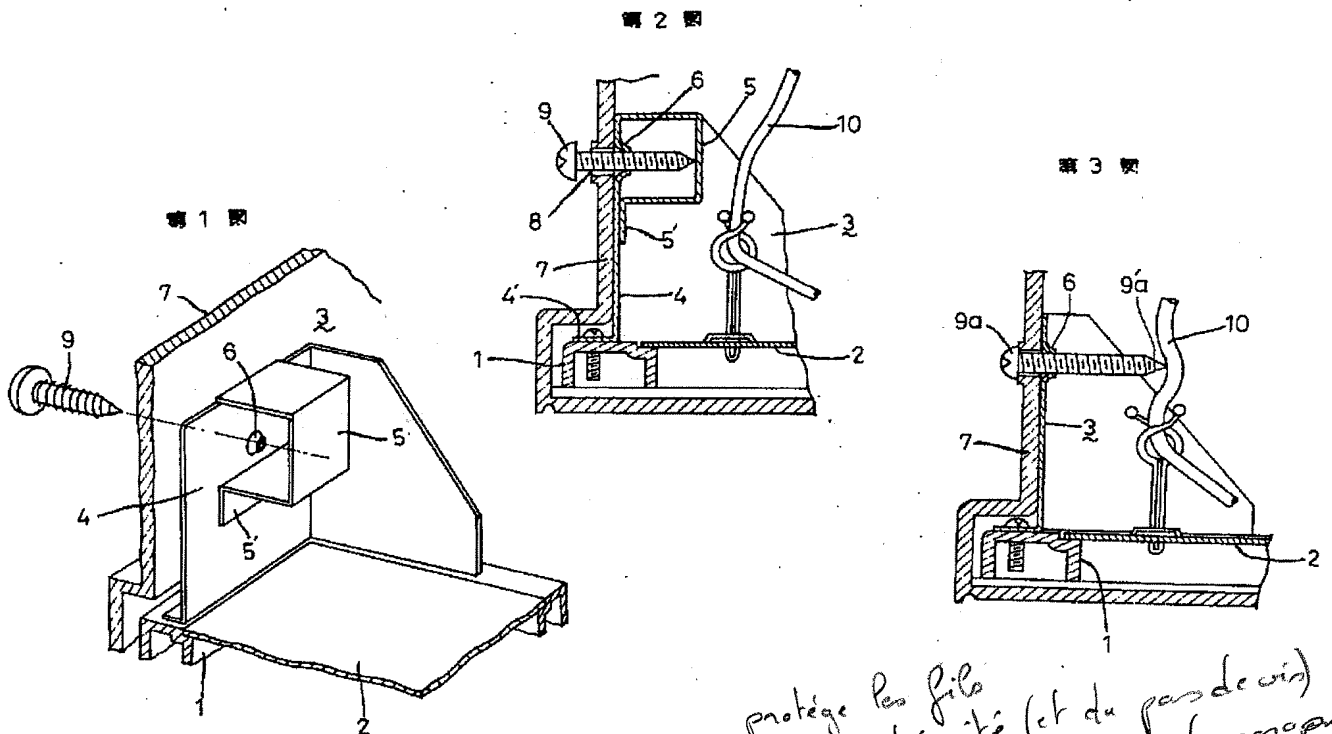
㉑ 実用新案登録請求の範囲

ブラケット上に設けた螺孔部において、該ブラケットの裏面上に該螺孔と直面してある間隔を保って進入止部材を設け、該螺孔へ被取付部材取着の為に螺挿した螺子の進入量を制限することにより螺子の適否を判断するようにしたことを特徴とするブラケットとパネルその他各種被取付部材との螺子止構造。

図面の簡単な説明

第1図及び第2図は本考案実施例を示し、第1図は、要部分解斜視図、第2図は、同上組付状態の縦断側面図、第3図は、従来例の縦断側面図である。

3……ブラケット、4……取付側面、5……進入止部材、6……螺子、7……パネル(被取付部材)、9……螺子。



protège les fils
de l'échappement (et du pas de vis)
de la vis, pas rétention de vis.

公開実用平成 3-110876

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-110876

⑬ Int. Cl.³

H 05 K 5/02
7/12

識別記号

庁内整理番号

A
D

7147-4E
7516-4E

⑬ 公開 平成3年(1991)11月13日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑭ 考案の名称 ブラケットとパネルその他各種被取付部材との螺子止構造

⑮ 実 願 平2-20086

⑯ 出 願 平2(1990)2月27日

⑰ 考 案 者 林 二 郎 大阪府大阪市阿倍野区长池町22番22号 シャープ株式会社
内

⑱ 出 願 人 シャープ株式会社 大阪府大阪市阿倍野区长池町22番22号

⑲ 代 理 人 弁理士 鈴木 ハルミ

明 細 書

1. 考案の名称

ブラケットとパネルその他各種被取付部材との
螺子止構造

2. 実用新案登録請求の範囲

1. ブラケット上に設けた螺孔部において、該
ブラケットの裏面上に該螺孔と直面してある間隔
を保って進入止部材を設け、該螺孔へ被取付部材
取着の為に螺挿した螺子の進入量を制限すること
により螺子の適否を判断するようにしたことを特
徴とするブラケットとパネルその他各種被取付部
材との螺子止構造。

3. 考案の詳細な説明

＜産業上の利用分野＞

本考案は、テレビその他各種映像機器或はオー
ディオ機器又は各種OA機器等において機器内部
のブラケットと、これに螺着するパネルその他各
種被取付部材との螺子止構造に関するものである。

＜従来技術＞

従来、螺止構造は例えば第3図のように、ブリ

ント基板2を保持するフレーム1上に取着したブラケット3の螺孔6にパネル7を螺子9aにより螺着するものである。

即ち、上述のように通常取付ブラケットと被取付部材との間には、取付螺子の進入量に何ら制限するものが全くなかった。

< 考案が解決しようとする課題 >

従って上記従来例において工場での組立ラインでは、厳しい管理のもとで作業が推進されるから特に問題はないとしても機器のメンテナンスつまり修理や定期検査に際して、各部材を取り外して再び分解した各部材を組立復元する場合、電子機器では長さが異なっても螺子の呼び径の等しいものが多く使用されるので、長さが若干相違しても組立可能な場合が多く、従って、取り違えて規格長さの螺子より長い不適切な螺子が使用された場合、第3図で示すように螺子9aの先端9'aがプリント基板2に接続されたケーブル10に強く当たることがあり、こうした時、ケーブルを損傷したり、場合によっては感電したり或はノイズの発生

原因となることがある。

<課題を解決する為の手段>

ブラケット上に設けた螺子部の裏側に、該螺孔と直面する位置にある間隔をおいて進入止部材を設け、該螺孔へ被取付部材取着の為に螺挿した螺子の進入量を前記進入止部材によって制限するようにしてなる。

<作用>

ブラケットへの被取付部材取着用螺子が規定長さ以上に長い場合、取付途中で螺子の先端が螺子進入止部材に当接して進入を阻止し、不適切な長さの螺子であることを作業者に認識させる。

<実施例>

以下、本考案について図面に示す実施例により詳細に説明すると、第1図並びに第2図に示すように、プリント基板その他各種物品支持基板2等を保持するフレーム1の上面に、下端縁4'を螺着したブラケット3の取付側面4に螺孔6を穿設すると共に、該ブラケット3の裏側つまり基板2の直上部に、前記螺孔6と直面する位置に該螺孔

6 からある間隔をおいて方形の進入止部材 5 をブラケット 3 の上端縁から一体に屈曲突設し、該進入止部材 5 の屈曲部先端 5' をブラケット 3 の取付側面 4 の内側にスポット添接その他より定着することにより該進入止部材 5 の安定を図るようにしている。

尚、上記図例は進入止部材 5 をブラケット 3 の上端縁から一体に屈曲突設した場合を示したが、現実にはこのような加工は材料取り点から見るとロスが多く不経済となるので、別途予め門形に屈曲形成した適宜大きさの進入止部材 5 をブラケット 3 の取付側面内側に螺着若しくはスポット止めすることが考えられる。

本考案は、上述のように構成されているので第 2 図に示すように、ブラケット 3 の取付側面 4 に、パネル 7 の取付孔 8 から螺子 9 を挿通して前記螺孔 6 に螺着した場合、万一該螺子 9 の長さが必要以上に長いと、該螺子 9 の頭部座面がパネル 7 に当たらないうちに先端が進入止部材 5 に当接して、それ以上緊締不可能となり、該パネル 7 とブラケッ

と、その結果、図 3 との締付けができなくなる。

そこで完全に締付可能な短い螺子を選んで再度締め直しを図ることができる。

又、上記はブラケットとパネルの取付例を挙げたがこれに限らず何れの二部材間においても同様に実施可能であることは言うまでもない。

このようにして本考案は、これまでのように、締付けにより螺子の先端でプリント基板に接続してケーブルを損傷させたり、或は締付け不能となったりすることが完全に防止される。

< 考案の効果 >

本考案は、上述のように構成されていて螺子の過剰な突出を防止するようにしたので、機器内部に設けられたケーブルの絶縁損傷を防止すると同時に、ケーブルと螺子との接触による漏電をなくし、感電やノズルの発生を防止できる。

そして、螺子を締付けた時、螺子が十分に締まっていなくても拘らず、進入不能となった時、作業者に螺子が不適切であることを認識させることができる。

そして、進入止部材のブラケット面との対向間隔をそれぞれ部所によって異ならしめることにより、メンテナンス時において適正な螺子と取り違えることがなくなり、完全な締付けと安全性を保つことができるなど実用価値の高い考案である。

4. 図面の簡単な説明

第1図及び第2図は本考案実施例を示し、

第1図は、要部分解斜視図、

第2図は、同上組付状態の縦断側面図、

第3図は、従来例の縦断側面図である。

3…ブラケット 、 4…取付側面

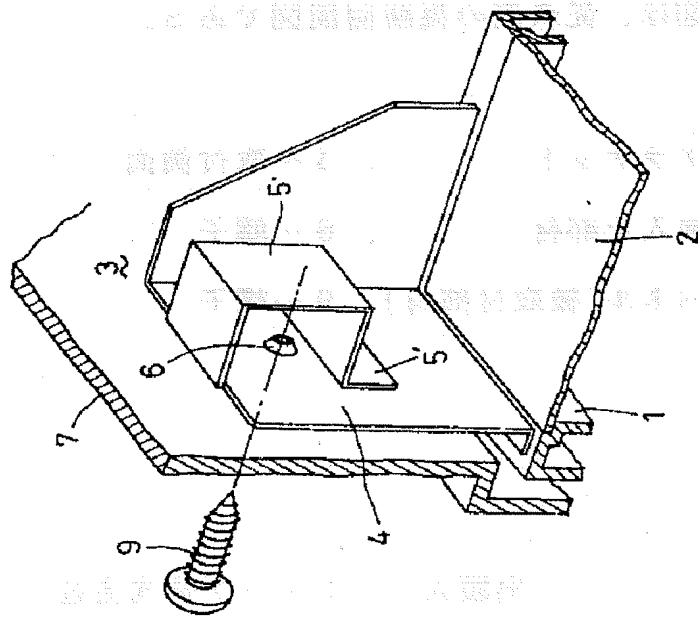
5…進入止部材 、 6…螺子

7…パネル(被取付部材)、 9…螺子

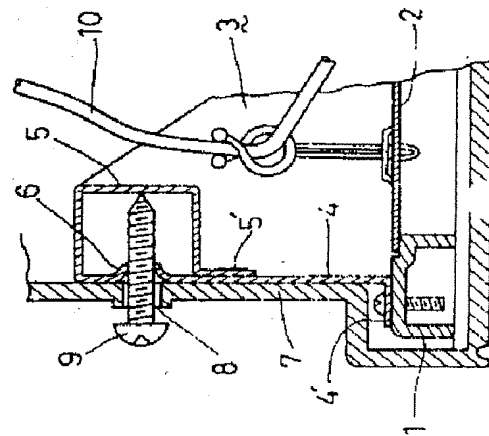
出願人 シャープ株式会社

代理人 鈴木 ハルミ

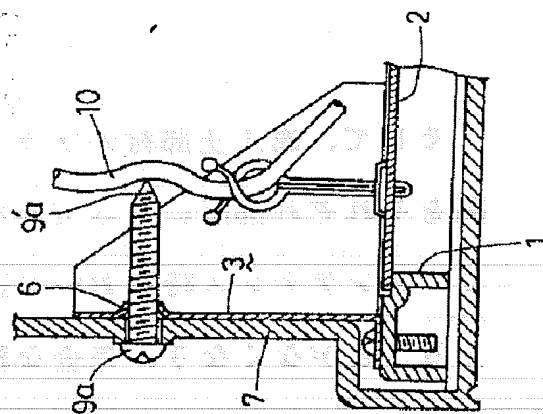
第1図



第2図



第3図



783

実開3-110876

代理人鈴木ハルニ